

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 6 月 12 日現在

機関番号：34602

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2009～2011

課題番号：21401015

研究課題名（和文）メコン河流域地域在地文書の新開拓と地域史像の再検討
—パヴィ調査団文書を中心に

研究課題名（英文） Reappraising the History of the Upper Mekong River Region through Documents in Indigenous Scripts: New Avenues for Research Opened up by Manuscripts Found in French and British Archives with a Focus on the Mission Pavie Papers

研究代表者

飯島 明子 (IIJIMA AKIKO)

天理大学・国際学部・教授

研究者番号：70299155

研究成果の概要（和文）：本研究課題はフランス外務省文書館が所蔵するパヴィ調査団文書所収文書など、フランスおよびイギリスの文書館に収蔵されている、メコン河流域地域の現地語文書を新たに掘り起こすことを第一の目的とし、予想を上回る多様な文書を収集することができた。同時にそれら、今日識字者の限られた諸固有文字で書かれた文書の解読・解題作成作業を進めながら、当該地域の歴史像の再検討に向けて、諸論考を著すとともに、データベースの構築とその公開を目指している。

研究成果の概要（英文）：The primary aim of this project was to research hitherto neglected documents in indigenous scripts of the Upper Mekong River Region, which had been kept in French and British archives. A copious amount of manuscripts in various indigenous scripts have been found through our researches. Competent project members have been engaged in deciphering manuscripts in order to reappraise the regional history and also to establish a database for further studies. The database is planned to be released on line when completed.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	4,200,000	1,260,000	5,460,000
2010年度	3,700,000	1,110,000	4,810,000
2011年度	4,300,000	1,290,000	5,590,000
年度			
年度			
総計	12,200,000	3,660,000	15,860,000

研究分野：東洋史

科研費の分科・細目：地域研究

キーワード：東洋史・メコン河流域地域・現地語文書・在地文書・データベース

1. 研究開始当初の背景

(1) 今日の五つの近代国家、すなわち中国、タイ、ビルマ（ミャンマー）、ラオス、カンボジアにまたがるメコン河流域地域の歴史研究においては、史料の残存状況に制約され、現地語在地文書への関心は年代記や家譜などに集中し、行政文書ないしは外交文書への関心は希薄であった。その理由は第一に、当該地域の植民地化以前に現地語を用いて作成された行政文書が現地においては既に失われ、今日確認することが困難なためである。

(2) 上述の史料上の欠落を補う新たな史料群を提供しうる可能性を有しているのがフランス外務省文書館所蔵パヴィ調査団文書など、フランスやイギリスの文書館に所蔵される外交文書等に含まれる現地語文書である。これら英仏の文書館所蔵文書中の各種現地語で書かれた在地文書に着目した研究は、世界的にも前例がない。しかしたとえばフランス外務省文書館所蔵パヴィ調査団文書については、浩瀚な刊本が知られているが、編集される以前の膨大な文書群が存在し、そこには刊本には登場しない現地語・固有文字で書かれた外交文書等が豊富に収められていることを、本科研代表者は1998年に行ったフランス外務省文書館の予備的調査により確認した。これらの現地語文書は、メコン河流域地域の歴史研究に寄与するところの大きい重要な史料であり、調査の意義は大きい。

2. 研究の目的

(1) フランスおよびイギリスの諸文書館において従来看過されていた現地語在地文書を掘り起こし、メコン河流域地域が植民地化される以前に在来の政治権力が発達させ、機能させていた文書システムのあり方を研究する。

(2) 現地語在地文書の解読・分析を通じて、メコン河流域地域の伝統政治権力の性格を検討し、首長同士、さらにはより上級のシャムをはじめベトナム・中国雲南等との間で展開していた複雑な政治・帰属関係の全体構造と実態を把握し、当該地域の歴史像を再検討する。

3. 研究の方法

(1) メコン河流域地域の各地では、今日の国民国家の公用文字であるタイ文字・ラオ文字・ビルマ文字・クメール文字・漢字のほか、タム文字・シャン文字・黒タイ文字・白タイ文字などの諸固有文字が用いられてきている。今日識字者が限られている、それら諸固有文字で書かれた現地語文書や漢文文書などに精通した地域の専門家による研究グループを組織して、調査を分担する。

(2) フランス外務省文書館、ケンブリッジ大学図書館をはじめとするフランスとイギリスの文書館において、当該地域に関連した所蔵文書（たとえばフランス外務省文書館所蔵パヴィ調査団文書、ケンブリッジ大学図書館所蔵スコット・コレクション）を閲覧して、そこに含まれる現地語在地文書を集中的に見だし、デジタル・カメラやデジタル・スキャンによる画像データとして収集する。

(3) 収集した文献を一定のフォーマットにしたがってデータベース化し、解題を作成し、分析する作業を、各メンバーの専門によって分担しながら進める。

4. 研究成果

(1) 本研究課題はフランス外務省文書館所蔵パヴィ調査団文書に収容されている文書をはじめとして、フランス・イギリスの文書館に所蔵されながら、従来全く看過されていたメコン河流域地域の現地語文書を掘り起こすことを第一の目的としたが、その結果、予想を上回る多様かつ多量の文書を収集することができた。これらの文書の「発見」は当該地域の歴史研究の史料状況を一変させるほどの大きな意義を有する。

(2) 今日識字者の限られた諸固有文字で書かれた現地語文書の解読・解題作成作業を行うことにより、当該地域の歴史像の再検討に向けたデータベースを構築し、広く内外に提供するという目標に関しては、作業の中途段階にある。その理由はひとえに収集した文書の量の多さにあり、データベースの完成までにはまだ相当の時日を要すると考えられるが、データベースの公開に至れば、内外の学界に裨益するところ大であろう。

(3) 本研究課題の当初の予定期間終了にあたり、全メンバーが寄稿して一書を編んだ。これは、メコン河流域地域の在人文書研究という射程の長い研究課題の中間報告として位置づけられるべきものである。その内容は三部から構成される。第Ⅰ部は本科研期間中に各メンバーがフランスとイギリスに出張して、諸文書館（既出の他に、エクサンプロヴェンスのフランス海外公文書館、フランス外務省文書館ナント分館、フランス極東学院、パリ伝道教会など）を訪れ、それぞれの専門に応じて分担・調査した言語・文字によって書かれた文書の所蔵状況についての概要報告である。第Ⅱ部では、各メンバーが収集した文書を数点ずつ紹介しながら、それらの文書の解読作業を通じて示唆される今後の歴史研究の可能性について論じている。第Ⅲ部は、収集した文書の一部のカタログである。メコン河流域地域の在人文書の豊富さと多彩さを概観できるように配慮しつつ、さまざまな文書の画像を提示しているが、収集した文書の総量に比すれば、その数は僅かである。この中間報告書については、改訂増補した論文集の印刷・刊行を予定している。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 11 件)

① ダニエルス クリスチャン、清朝とコンバウン朝の狭間にある雲南のタイ人政権—1792年～1815年までの国内紛争—、永原陽子編『生まれる歴史、創られる歴史—アジア・アフリカ史の最前線から—』刀水書房、2011、査読無、55-91

② 樫永真佐夫、東南アジア少数民族の年代記と歴史研究—ベトナムにおける黒タイ年代記の分析から、歴史と地理／世界史の研究、査読無、641号／226、2011、1-15

③ Christian Daniels (ダニエルス クリスチャン)、*Agricultural Technology and Consolidation of Tay Polities in Northern Continental Southeast Asia during the 15th Century*, Geoff Wade and Sun Laichen eds. *Southeast Asia in the Fifteenth Century: The China Factor*, Hong Kong University Press、査読有、2010、246-270

④ 唐立 (ダニエルス クリスチャン)、18—19世紀雲南民間天然資源管理措施初探」、楊偉兵主編『明清以来雲貴高原の環境与社会』東方出版中心(上海)、査読有、2010、302-313

⑤ ダニエルス クリスチャン、雲南地域住民の天然資源保護・管理—18世紀後半～19世紀前半の元江流域・メコン河上流域を事例として—、アジア遊学、査読無、136号、2010、104-112

⑥ 武内房司、ヴェトナム国民党と雲南～滇越鉄道と越境するナショナリズム、東洋史研究、査読有、69巻1号、2010、92-122

⑦ 武内房司、地方統治官と辺疆行政—十九世紀前半期、中国雲南・ベトナム西北辺疆社会を中心に、山本英史編『近世の海域世界と地方統治』汲古書院、査読無、2010、171-201

⑧ 飯島明子、「タイ人」の歴史—「タイ文化圏」への誘い、歴史と地理／世界史の研究、査読無、639号／225、2010、38-41

⑨ Kashinaga Masao (樫永真佐夫)、*L'usage de la chronique Quam To Muang lors des funérailles chez Tai-Noirs, Viêt Nam*, Akira Saito et Yusuke Nakamura (eds.), *Les outils de la pensée: Étude historique et comparative des textes*, Paris: Maison des sciences de l'homme、査読有、2010、113-128

⑩ 飯島明子、ラオス、北タイ、シブソンパンナー—越境する歴史研究、東南アジア史学会40周年記念事業委員会編『東南アジア研究の展開』山川出版社、査読無、2009、141-153

⑪ ダニエルス クリスチャン、雲南人(ホー)のボンサーリー史—山地民を統治した傳一族の事例を通して、新谷忠彦・C.ダニエルス・園江満編『タイ文化圏の中のラオス: 物質文化・言語・民族』慶友社、査読無、2009、71-124

[学会発表] (計 6 件)

① ダニエルス クリスチャン、An Introduction to the Shan Manuscripts in the Library、Needham Research Institute Text-Reading Seminars、2011年11月18日、Needham Research Institute (英国・ケンブリッジ)

② 武内房司、長生教《儒童宝卷》の周辺～兼問信仰與地域社会」国際学術研討会、2011年11月9日、台湾・仏光大学(招待講演)

③ 武内房司、辛亥革命與越南光復会、「辛亥革命與世界」国際研討会、2011年10月19日、北京大学

④武内房司、從西江走廊看十九世紀前期的中越關係—以雲南和越南西北部傣族社会為中心的考察、「明清帝國的建興中国西南土著社会的演變」國際學術研討會、2010年6月20日、中山大學（中國・廣州）

⑤ダニエルス クリスチャン、一八世紀後半～一九世紀前半における地域住民の天然資源保護・管理—元江流域・メコン河流域を事例として、史学会、2009年11月7日、東京大学

⑥ダニエルス クリスチャン、タイ族—雲南から国境を越えて、中国文化講座（中国の少数民族西南編）、2009年4月21日、工学院大学孔子学院（東京）

〔図書〕（計4件）

①樫永真佐夫、雄山閣、黒タイ年代記—「タイ・ブー・サック」—、2011、163

②唐立（ダニエルス クリスチャン）編、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、雲南西部少数民族古文書集、2011、289

③武内房司編、吉川弘文館、日記に読む日本の近代5・日本とアジア、2011、272

④C.ダニエルス、他編、慶友社、タイ文化圏の中のラオス：物質文化・言語・民族、2009、401

6. 研究組織

(1) 研究代表者

飯島 明子 (IIJIMA AKIKO)

天理大学・国際学部・教授

研究者番号：70299155

(2) 研究分担者

ダニエルス クリスチャン

(DANIELS CHRISTIAN)

東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・教授

研究者番号：30234553

武内 房司 (TAKEUCHI FUSAJI)

学習院大学・文学部・教授

研究者番号：30179618

樫永 真佐夫 (KASHINAGA MASAO)

国立民族学博物館・研究戦略センター・准教授

研究者番号：10342643